



平成 19 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社  
 代 表 者 名 取締役社長 加 藤 雅 一  
 ( J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5 )  
 問 合 せ 先  
 役 職 ・ 氏 名 取 締 役 松 井 政 彦  
 電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 2 0 年 3 月 期 中 間 ( 連 結 ) 業 績 予 想 な ら び に  
 通 期 ( 連 結 ) 業 績 予 想 の 修 正 お よ び 特 別 利 益 の 発 生 に 関 す る お 知 ら せ

平成 20 年 3 月 期 (平成 19 年 4 月 1 日 から平成 20 年 3 月 31 日) の中間期及び通期の業績予想について、平成 19 年 5 月 14 日付当社「平成 19 年 3 月 期 決 算 短 信」に て 発 表 いた した 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 いた します。

記

## 1. 平成 20 年 3 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 等

中間期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 ( A )	4,923	225	227	49
今 回 修 正 ( B )	3,791	719	750	176
増 減 額 ( B - A )	1,132	944	977	225
増 減 率	23.0%	-	-	-

## 修正理由

当社グループの中核事業であります商品先物取引事業におきましては、国内商品先物市場の出来高の低迷から、全国市場売買高は前年同期比 23.6% 減と落ち込んでおります。

このような環境の中で、当社グループの商品先物取引事業の受取手数料は、主力である貴金属市場においては、前中間期に比べ小幅の減少にとどまったものの、その他の市場においては売買高減少の影響を受け、2,823 百万円となり計画を下回る見込みとなりました。売買損益につきましても、農産物市場におけるディーリングでは利益をあげたものの、その他の市場におけるディーリングは低調であったため、216 百万円の利益にとどまる見込みであります。

また、これまで支店の統廃合等などにより販売管理費の削減をすすめておりますが、これらの経費削減効果が表れるのは下半期以降となり、当中間期におきましては受取手数料の落ち込みを埋めるまでにはいたっておりません。

この結果、営業収益は 3,791 百万円、連結営業損失は 719 百万円、連結経常損失は 750 百万円となる見込みであります。

このほか、特別利益として商品取引責任準備金の取り崩しにより、商品取引責任準備金戻入益 568 百万を計上するほか、平成 19 年 9 月 28 日付当社「連結子会社の特別損失および特別利益の計上について」にて発表いたしましたとおり、債権譲渡損失 855 百万円および貸倒引当金戻入益 865 百万円を計上したため、連結中間純損失は 176 百万円となる見込みであります。

通期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	10,088	849	881	288
今回修正（B）	8,569	150	191	83
増減額（B - A）	1,519	999	1,072	205
増減率	15.1%	-	-	71.2%

#### 修正理由

通期の連結業績予想につきましては、中間期の業績動向や支店の統廃合等による販売管理費の削減などにより、営業収益は 8,569 百万円、連結営業損失は 150 百万円、連結経常損失は 191 百万円となる見込みであります。しかしながら、上記中間期の修正理由にありますとおり、商品取引責任準備金の取り崩しによる商品取引責任準備金戻入益の計上等により、83 百万円の連結当期純利益となる見込みであります。

ご参考：前期の実績（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期（H18/4～H18/9）	4,748	200	213	863
通期（H18/4～H19/3）	8,899	477	475	2,563

#### 2. その他

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、市場環境の変化など様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上